

2

えどがわエコセンターの取り組み



地球温暖化防止

地球温暖化防止

温暖化の防止は日々の暮らしを楽しみながら、スマートに

「みどりのカーテン」推進事業

「みどりのカーテン」は、つる植物を窓際に植えて夏の日差しをさえぎり、葉の蒸散作用によって暑さを和らげる効果があります。「みどりのカーテン」を広め、エアコンに頼りすぎない夏の過ごし方を提案します。

モニター講習会・交流会

本事業ではまずモニターを募集し、4～5月に数回の講習会を実施します。講習会でゴーヤの育て方を説明し、苗とネットを配布します。モニター修了後には交流会を実施しています。

「みどりのカーテン」フォトコンテスト

モニターの方から写真を提供していただき、江戸川区民まつりで「フォトコンテスト」を実施しています。順位は来場者の方の投票で決定します。

「みどりのカーテン」をご存知のない方へのPRの意義も込めて行っています。



みどりのカーテンモニター講習会



「みどりのカーテン」フォトコンテスト

これからの家庭の賢い省エネ方法

(株)環境エネルギー総合研究所 所長 大庭 みゆき



私は家庭の省エネを専門とするコンサルタントです。江戸川区とは平成22年度～23年度の2年間にわたって家電の電力消費量が分かる計測器を利用した「正しい節電」の実験をお手伝いし、1世帯あたり1年間で約179kWhの省エネ、約76kgの二酸化炭素排出量の削減を達成しました。その時の結果は「江戸川区版省エネガイドブック」にまとめて区民の皆様に広報しました。ここ数年は、えどがわエコセンターの「おさがる環境講座」の講師をさせて頂き、区民の皆様に楽しく省エネできる方法等をご披露させて頂いています。

これからの省エネは「科学の省エネ」と「足し算

の省エネ」です。インバータ等、家電製品の省エネ技術を最大限に発揮できる方法で使用すると省エネになります。例えばエアコンは室内機と室外機の温度差が小さいほど少ないエネルギーで稼働するため、冷房時には室外機に直射日光が当たらないように日除けをしましょう。そうすることで我慢をしなくても省エネになります。また照明は天井に一灯だけというご家庭が多いですが、エネルギー消費が少ないLED照明を一つ加えて多灯にし、長時間照明を使用する時はLED照明を使うようにすると省エネになります。このように何かを足して省エネするのがこれからの賢い省エネ方法です。

「省エネ・節電チャレンジ」事業

省エネ・節電チャレンジ ～5%以上の節電にチャレンジ!

2011年東日本大震災での電力不足で、家庭での節電意識が高まりました。地球温暖化防止のためには、企業だけでなく、各家庭での省エネ・節電行動は欠かせません。

本事業では、楽しく節電に取り組んでいただけるよう、昨年度比5%以上の節電に成功した世帯に記念品をプレゼントしています。



省エネ・節電チャレンジ



省エネナビの貸出・利用者懇談会

省エネ・節電チャレンジの参加者に「省エネナビ」の貸出を行っています。「省エネナビ」は、エアコン・冷蔵庫・テレビなど同時に3つの家電の電力量を測定することができる機器です。測定終了後の診断書で省エネ行動の成果を確認することができます。

また、省エネナビを利用した方々による懇談会を開催して、省エネに関する情報交換を行っています。



省エネナビ貸出説明会

家庭の省エネ診断

家庭の電気・ガス・ガソリンの年間使用量データ等から、一般的な家庭の平均値と比較、分析し、さらに省エネをすすめるためのアドバイスをしています。



省エネナビ

温暖化の防止は身近な取り組みから

NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 代表理事 奈良 由貴



エコセンター設立10周年、おめでとうございます。エコセンターの発足当初から、地域で活動している「NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」として参加させて頂き、地球温暖化問題にかかわる活動に携わらせていただいています。

地球温暖化問題は喫緊の課題であるにもかかわらず、温室効果ガスの種類や削減目標数値など分かりにくさがついて回り、また、国際的な議論や国の方針、行政の制度・施策などとも連動するため、どうしてもややこしいテーマになりがちです。そうした中で、エコセンターが数年にわたり取り組んでいる

「みどりのカーテン」や「省エネ・節電チャレンジ」は、区民が生活の中で身近にエネルギーを考え、温暖化防止を推進できる事業です。何より「楽しい」し仲間もでき、「お徳感」もあり、一度経験すれば無理なく継続ができる活動とも言えるでしょう。「低炭素社会づくり委員会」の担当事業として、より多くの区民の方々に広がっていくことを願っています。

10年間の活動の実績を活かしながら、今後も市民主体、地域主体の省エネ・創エネに取り組み、共に持続可能なエネルギー社会をめざしていきましょう。

工夫をこらした講座・体験

太陽光エネルギー利用講習会

再生可能エネルギー利用の推進のため、太陽光発電システムについての説明会を行っています。太陽光発電の仕組みや設備の設置方法等について、分かりやすく解説します。



エコ・クッキング料理教室、江戸川区産小松菜ジュースの試飲会

「エコ・クッキングナビゲーター」による講座です。「エコ・クッキング」とは、地球環境に配慮した「買い物」「調理」「片づけ」をすることを言います。料理教室では、使用するガスや水の量、調理によるごみの量を減らすことを考えながら、体にも地球にもやさしい、おいしいお料理を作っていただきます。



ダンボール・クッキング

オープンづくりと炭火おこし、防災かまど体験

非常時にも利用できる、ダンボール・オープンを作る講座です。公園で実施する教室では、作ったダンボール・オープンで、炭火をおこして「じゃがいもピザ」等を焼きます。「防災かまど」でスープ等も作ってみます。



炭火おこし



オープンづくり

打ち水

冷房に頼りすぎない夏の過ごし方に「打ち水」があります。環境に配慮したくらしの提案として、エコセンターでも「打ち水」を推進しています。打ち水セット（バケツ、ひしゃく、のぼり）の貸出もしています。



キャンドルナイト・スタンド作り教室

お月見の日に、照明・テレビを消し、キャンドルを灯して夜を過ごします。お月見を楽しみながら未来の地球を考える時間を過ごします。

スタンド作りは、キャンドルナイトをより楽しむため、オリジナルのキャンドルスタンド作り教室を実施しています。



スタンド作り



資源循環

資源循環

物を大切に使うアイデアをいっぱい集め、楽しく3Rを推進

「ごみ減量」のために

マイバッグキャンペーン

6月の環境月間と10月の3R推進月間に、江戸川区・江戸川区商店街連合会・スーパー・コンビニ

と連携し、マイバッグキャンペーンを実施しています。

また、環境フェア、区民まつりや地域まつりなどでブースを出し、マイバッグの普及・啓発を行っています。



ポスター



地域まつりでのキャンペーン

生ごみリサイクル講習会

【ワークショップ 生ごみ堆肥づくり】

家庭から出る可燃ごみの約半分が生ごみです。生ごみは焼却すれば大量のCO₂を排出しますが、堆肥化すれば貴重な資源となります。

毎年、春と秋の講座に加え単発の講座により、これまでに1,000名を超える区民が受講しています。



講習会

「江戸川システム」で素敵なエコ仲間の輪を広げて

生活環境評論家・元富士常葉大学教授 松田 美夜子



エコセンター発足当時、私は区の廃棄物減量等推進審議会委員をしていましたので、区民の皆さんのエコセンター設立に向けての熱い活動を昨日のように思い出します。初めは、区役所内の小さな部屋から始まり、ほどなく現在の場所に移り、またたく間にエコ活動の基盤ができてきました。江戸川区は暖かいご近所付き合いが絶えることなく、昔から受け継がれていることを、私は「江戸川システム」としてその時学びました。10年が過ぎ、資源循環や環境保護に対する人々の意識は大きく成長しましたが、実践の継続は、絶え間のない学習と行動が必要です。エコセンターは、区民が学び、活動し、交流を深め

る場所としてますます重要になってくると思います。

私は今年、イギリスのオクスフォードに滞在しています。市役所のお知らせで最も多いのがごみの分別の啓発です。大学が44校ありますので、世界中から学生が来ており、それ以上に短期間の留学生と観光客が多いという関係から、常に啓発が必要なのだと痛感します。今、市内の循環バスには、「秋の環境フェアオクスフォード」のポスターが掲載されています。参加してみようと楽しみにしています。これからも素敵なエコ仲間の輪を一緒に広げていきましょう。

楽しく体験

循環型ガーデニング

篠崎公園17号地で環境に優しい循環型ハーブガーデンを運営しています。

家庭で出た野菜くずや雑草、区立自然動物園の草食動物のフンをコンポストで堆肥にし、ハーブの土に活用します。

ハーブの収穫時期には「収穫祭」を開催し、ハーブを使ったクッキーやお茶を作り、試食していただいています。



ハーブガーデン



ハーブガーデン

エコセンターおもちゃの病院

子ども用のおもちゃを対象に無償で修理をします。幼いときから、ものを大切にする心をもってほしい、との願いで活動しています。

大人の方の依頼でも、思い出があって捨てられないおもちゃも修理します。毎月第二土曜日がおもちゃの病院診察日です。



修理風景

資源を大切にする地域社会は身近な取り組みから

特定非営利活動法人生ごみリサイクル全国ネットワーク 理事 倉内 皓子



区の廃棄物減量等推進審議会の委員としてエコセンター設立に関わりました。エコセンターの理事とごみ減量・リサイクル部会長として活動しました。

ごみの回収システムが江戸川方式に変更になる時で、分別をゲーム方式にして学校、町会、商店街のイベントに出向き新方式の周知、広報をしました。今集積所を見ると整然と江戸川方式で回収されています。懸命に取り組んだ甲斐があったと思います。

ツアーも企画しました。企業の環境に対する努力、斬新なシステム、リサイクル工場の地道な取り組み等沢山の会社にお世話になりました。

現場を見せていただき、家庭で取り組めることは

まず台所から省エネできる事に取り組みました。生ごみのリサイクルでたい肥化したものを区の公園で健康な土作りをし、ハーブと草花を育てました。

今はごみの発生抑制が第一と買い物から後片づけまでを考慮した料理教室を開催しています。水、熱量を効率よく使い調理時に廃棄物を出さないことを重視して効果的に手早く、おいしいメニューは参加者に喜んでいただいています

これからも環境に負荷をかけない生活、資源を無駄なく大切にする取り組みを市民レベルで続けていきたいと思っています。

身近な材料を利用した講座・講習

マイ座布団・長座布団づくり講習会

粗大ごみで一番多く捨てられているのがふとんです。打ち直しをして長く使える綿布団の良さを知ってもらうため、この講習会を実施しています。



布ぞうり作り・裂き織り講習会

不用になった布を利用して布ぞうりを作ります。裂き織り講習会では、折り機で美しい模様の布地を作ります。作った布地はおしゃれなマフラーやバッグ等に変身します。



古紙を利用したものづくり教室 (新聞紙バッグ、座椅子)

古新聞やちらし、包装紙等を使って、おしゃれなマイバッグができます。

牛乳パックとダンボールを骨組みにして余り布でくるみ、座椅子を作ります。



マイ箸包み作り教室

使い捨ての代表として「割り箸」があります。特に外食が多い方は「マイ箸」を利用することで、環境に配慮する第一歩になります。そこで簡単に作れて洗える「マイ箸包み」の教室を開催しています。



防災頭巾の作り方教室

家庭に身近にあるバスタオル、ハンドタオルから、防災頭巾を作ります。災害時に糸をほどけばタオルとして使用できるなど、工夫次第で様々な活用ができます。



廃棄CDやペットボトルを利用した、おもちゃの工作体験

廃棄CDとペットボトルを使って「メリーゴーランド」や「コマ」を作ります。不用品の再利用で子どもたちの「もったいない」の心を育みます。

夏休みの宿題としても好評です。



自然環境保全

自然環境保全

区内の貴重な財産である自然環境を次世代に引き継ぐために

水辺環境調査

江戸川区内の一級河川・河川敷（江戸川・荒川・新中川）及び東なぎさ・外海における環境モニタリング調査を年4回行っています。蓄積したデータは今後の環境保全の基礎資料にするとともに、調査を通じて水辺環境の保全意識を高めていきます。

植物調査

季節ごとに在来種や帰化植物の種類・生育状況を調べています。



植物調査



鳥類調査

セイタカシギ



船上調査



底生生物調査

鳥類調査

河川流域や葛西臨海公園は、多くの野鳥にとって貴重な生息域です。特に、冬季はスズガモなど渡り鳥にとって安心して休息地となっていることからその生態を調査します。

魚類・底生生物調査

河川・海で魚類を捕獲し、種類・大きさなどを調べます。また、貝類、エビ・カニ類など多くの底生生物が確認できます。

自然豊かな環境を皆で守り育てるために

日本野鳥の会東京 幹事 飯田 陳也



環境調査のお手伝いをしていた環境推進課調査係の鈴木稔夫係長さんたちがエコセンター立ち上げ準備をしていた頃に、鳥類園友の会と「鳥類園管理の入札」に応募した事があります。エコセンター立ち上げ初動の活躍は自然動物園から移られた高木嘉雄さん、その後を引き継がれた理事長の小林豊さんも環境系の分野で活躍され生き物に精通されています。私は長いお付き合いになりますが、この間鳥類園友の会の環境保全や普及活動を支えてくださり、予算の厳しい時でも続けてきた野鳥調査などに、継続の重要性を理解していただきました。

このたび葛西臨海公園の西側に2020年オリンピック・カヌースラローム施設が造られるという事が発覚しまし

た。以来、生き物豊かな臨海公園を守る運動を鳥類園友の会と野鳥の会は江戸川区と東京都へ見直しを求めて交渉を続けてきましたが、6月の都議会で舛添知事が予定地を隣の下水道局の土地に変更することを示唆しました。蓄積した生き物データを駆使し臨海公園の生き物の豊かさを伝えられたことで多くのマスコミも注目し、自然保護団体が出した要望がすんなり通ったまれな例で大きな意味を持っていると言えるでしょう。

私は、今後の自然を大切にすること大きな目標として葛西臨海・海浜公園のラムサール条約への登録が課題と考えています。

エコセンター おめでとう10周年！

自然復元・再生事業

東なぎさクリーン作戦

東なぎさに打ち上げられたごみを収集して環境保全活動を体験します。また同時に植物・鳥類・底生生物について自然観察を行っています。



植物観察



東なぎさクリーン作戦

ムジナモ（水生生物）の育成

植物学者・牧野富太郎博士により1890年小岩（江戸川河畔）で発見された世界でも希少な水生植物（食虫植物）です。現在種の保存活動を続けています。



ムジナモ



ムジナモ発見の地 石碑

川と海とが出合うところ

子ども未来館 前館長 高木 嘉雄



江戸川区の自然環境を語るとき、外せないキーワードがこれ。えどがわエコセンターもこの地理特性を踏まえて各種のモニタリングや観察会、保全活動を続けてきました。

葛西臨海・海浜公園は有数の野鳥飛来地として知られています。荒川や江戸川は、区内を縦横に毛細血管のごとく結ぶ親水公園、緑道とともに「水とみどりのネットワーク」を形成しています。「川と海とが出会う」水環境が生み出す独特の生物多様性。淡水・汽水・海水それぞれも環境に対応した生物がすみ分けていることから生まれる多様性。

都市には手つかずの自然と呼べる場所は無いですが、

積年の努力の結果「復活」に至った生物もいます。「トビハゼ」はその代表格ですし、数々の希少な野鳥群は河口部や葛西沖に復元された干潟に定着しました。

こうした貴重な財産を次世代に引き継ぐためには「調査」と「啓発」そして「活用・保全」この3つの活動がバランスよく行われることが大切であることは言うまでもありません。「調査」のための調査であってはなりませんし、持続的に「活用」されるためにはしっかりと「啓発」が前提です。

えどがわエコセンターはこれからも「水とみどりの江戸川区」の要として、地域の生物多様性保全活動の先頭に立ち続けていくことでしよう。

自然観察会・自然体験

江戸川区内を流れる河川や海、また多くの公園など、その豊かな自然環境を活用し自然観察会を行い、改めて自然の大切さを学んでもらいます。

公園で樹木の観察

草花や鳥、昆虫さらには地域の歴史を学び、自然の成り立ちや移り変わり、気候との関係などを学習します。



葛西臨海公園・鳥類園で野鳥観察

絶滅危惧種のセイタカシギや冬の渡り鳥観察ではスズガモの16万羽の群れを見る事ができます。



河川敷で生き物探し

カニや小魚などの生き物とふれあいながら、自然の素晴らしさを知り楽しんでもらいます。



葛西臨海公園・鳥類園でマダケ切り

切った竹で竹とんぼや水鉄砲作りを楽しみます。



Eボートに乗ろう!

Eボートの乗船を通じて、子どもたちが川の自然を体験することで環境を学ぶ楽しいイベントです。



仲間づくり

仲間づくり

環境に配慮した暮らしを広める人づくり

環境教育

グリーンプラン推進校

えどがわエコセンターと協働し、幼稚園・小中学校における環境学習を推進するモデル校です。平成17年度より、グリーンプラン推進校はスタートし、毎年10校（園）程度の参加があります。この事業を通して、えどがわエコセンターからは各種情報のほか、資材などの経費を学校に提供するなど支援をしています。



畑づくり



芝生管理



エコ委員会の活動

共育・協働で人づくりを えどがわエコセンターの10周年に際して

江戸川総合人生大学 学長 北野 大



えどがわエコセンターの設立10周年おめでとうございます。エコセンターと江戸川総合人生大学とは相互に補完しあう機関として、これまで活動を続けてきました。

エコセンターは「グリーンプラン推進校」や「子供環境教室」などの環境教育の面で、さらには「おきがる環境講座」や「生ごみリサイクル講座」などを通じて多くの受講生に教育を行い、人材育成の実績を上げてきました。これらの活動が評価され、昨年には地球温暖化防止活動の環境教育部門で環境大臣表彰を受けたことは、私としてもうれしい限りです。

ご承知のように、現在の環境問題はこれまでの公害とはおおきく異なっています。現在の環境問題、特に温暖化問題や廃棄物問題は区民が自分自身の問題としてとらえることが必要なこと、さらにはライフスタイルや価値観の変更までもが問われております。

このような点からも、エコセンターで実施している環境教育や人材育成は今後ますますその重要性が高まってきているといえます。

えどがわエコセンターが今後この分野でさらなる発展をし、その結果として社会に大きな貢献をすることを期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

21世紀子ども放課後環境教育（すくすくスクール対象）

平成20年から環境省が作成した「21世紀子ども放課後環境教育プログラム」を活用し、すくすくスクールの子どもたちを対象に、ゲームをしながら環境について学んでもらいます。



環境バスル



買い物ゲーム

もったいない運動えどがわ（出前授業）

学校向けの環境プログラムを総合学習の時間やPTAの集まりなどで、「出前授業」として提供しています。



発表会



風力発電体験

子ども環境教室（夏休み・土曜日開催）

地球環境についての知識・経験・技術を身に付けると同時に家庭・学校等で子ども環境リーダーとして、先頭に立ってリードできる人材を育てる教室です。この教室では、実験などを行い、楽しみながら学習できます。



環境クイズ



遮熱効果の体験

環境教育・人材育成への取り組み

イノシン倶楽部 会長 大和地 弘一



地域での活動を考えていたときエコセンターに出会い設立以来、環境教育の活動に係わり、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）に向け、学校と連携し「グリーンプラン（GP）推進校」（環境教育モデル校）を中心に「幼・小・中学校」と「すくすくスクール」を対象に環境教育の支援に努めてきました。

GP推進校は、平成17年に設置され、延べ89校が参加。すくすくスクールでは、平成20年から「21世紀子ども放課後環境教育」（環境省モデル事業）を展開し、延べ45校、2100名の児童が参加。また、「出前講座」として環境教育の取り組み支援をしています。

人材育成の面では、特に「おきがる環境講座」や「生

ごみリサイクル講習会」は、エコセンター設立時から毎年開催、地域で活動する人材育成に努め、延べ受講者が各2,000人、1,000人の方々が世代や立場を超えさまざまな場面で活動されています。また、企画・運営を担う団体も育ち20団体が中心的な役割を担って活動をしています。これらの活動が平成25年度の地球温暖化防止活動の環境教育部門で環境大臣賞を受賞し評価されました。

今後も、教育委員会・学校と連携を深め、ESD教育に向けたプログラムの整備、人材育成に努め、日常生活の中で行動に結びつく環境教育を展開して行きます。今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

人材育成

おきがる環境講座

平成16年度にスタートした「環境学習リーダー養成講座」は、平成20年度から「おきがる環境講座」に名称を変え、地域やエコセンターで活動するための知識やノウハウを基礎から段階的に学べる講座を実施しています。受講生は2,500人を超えました。



おきがる環境講座
パンフレット

基礎講座

篠崎ビオトープで秋の自然を楽しもう！

地球温暖化と異常気象

ステップアップ講座

知って得する省エネセミナー

親子で食育菜園を体験しよう

リーダー・仲間づくり講座

レッツ・エコデビュー

リーダー養成講座 修了式

もったいない運動えどがわ（出前講座）

町会・自治会、PTA、図書館から、環境に配慮する暮らしに関する講座の講師派遣の依頼をいただきます。また、環境をよくする地区協議会や民生委員の方々などの地域の方々とも連携を図り実施しています。



ふろしき講座



省エネ講座



防災頭巾講座



もったいない運動えどがわ

もったいない運動えどがわ

【もったいない】を合言葉に、住みよい地球環境を次の世代へ

環境フェア（もったいない運動えどがわ表彰）

毎年、環境月間である6月に、江戸川区との共催で「環境フェア」を開催しています。

えどがわエコセンター会員団体が出展し、多くの来場者に対する活動PRの場になっています。

また、同時に開催される「環境をよくする運動中央大会」の中で【もったいない運動えどがわ】の優れた取り組みをされた、個人・家庭、団体、事業所、学校等について表彰を行っています。



表彰式

エコセンター設立10周年を祝して

江戸川区商店街連合会 会長 松本 勝義



平成16年4月に、「めざそう日本一のエコタウン」を合言葉に発足した「えどがわエコセンター」の皆さま、設立10周年誠にありがとうございます。

心からお祝い申し上げます。

エコセンターの情報誌「エコちゃんねる」創刊号のメッセージにもありましたが、区商連も当初よりこの趣旨に賛同し「商店街でできるエコ事業」として、「ノーポリ袋デー」やマイバッグコンテスト・エコクッキングなどを行い、エコセンターとともに「東京都グリーンコンシューマー奨励賞」をいただくという評価を受けました。また、平成18年からは、「もったいない運動えどがわ」に取り組みされていま

すが、商店街のお店も「エコチャレンジ表示板」を掲示し、「エコバッグ」と呼ぶマイバッグの貸出による「脱・レジ袋」運動を行ってきました。

最近では、6月の環境月間や10月の3R月間にマイバッグキャンペーンを展開しています。このように、エコセンターと連携しながら様々なエコ活動を実践しています。

今後もエコセンターの事業が20年・30年と続き、みなさんのご尽力により、区内に「もったいない」の輪がひろがり、江戸川区が「日本一のエコタウン」となることを祈念いたしまして、お祝いの言葉と致します。

江戸川区民まつり

篠崎公園の環境コーナー【エコアイランド】にえどがわエコセンター及び会員団体が出展しています。

えどがわエコセンターのPRを行うとともに、多くの来場者楽しくエコを体験していただいています。



地域まつり

春と秋に開かれる各地域まつりでは、マイバッグキャンペーンのほか、区民のみなさんがどのような「もったいない運動」に取り組まれているかのアンケートを実施しています。



もったいない運動を広める「もりあげ隊」

えどがわエコセンター会員有志【もりあげ隊】が各種イベントで活躍しています。緑のベストが目印です。

もったいないの心を地域に広げるために

環境をよくする運動葛西地区協議会 会長 大関 道彦



このたび、えどがわエコセンターが設立十周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

えどがわエコセンターが設立された平成16年は、「MOTTAINAI」を世界に広めたワングリ・マータイ女史が、ノーベル平和賞を受賞された年でした。この翌年に、私は環境をよくする葛西地区協議会の会長に就任しました。ちょうど京都議定書が発効される年でもありました。そして、次の年から、えどがわエコセンターを中心に「もったいない運動えどがわ」が始まりました。

この運動の大きな目的の一つは、今の素晴らしい環境をいかに将来の世代に引き継ぐかということです。今、私たちが享受している環境は、先人たちの努力によって作り上げられ

たものです。特に葛西地区に住む者にとって、葛西海岸のごみ公害、航空機騒音問題及び成田新幹線整備計画問題を忘れることはできません。

しかしながら、現在の環境問題は、身近に実感することが難しくなっています。この問題をわかりやすく解説し、私たちにできる取組みを提示してくれたのが、えどがわエコセンターです。ちなみに、私は、洗顔の水を再利用する節水とともに、部屋の電気をこまめに消灯する節電に努めています。今後もえどがわエコセンターを中心に、「日本一のエコタウン」を目指して、一つひとつできることを積み上げていきます。最後にえどがわエコセンターの今後益々の御発展を御祈念申し上げます。

商店街まつり

商店街のイベント応援団として、江戸川共栄商店街、松江大通り商店街、平井親和会商店街などの主催するイベントに出展しています。

出展内容は、人力発電自転車、ごみ分別クイズ、省エネクイズ等さまざまな催し物を行っています。



松江大通り商店街
3りんしゃグランプリ



瑞江駅前3商店会
歳末・福引セール



平井駅前商店街
エコ・パレード

各種イベント出展

小学校PTA主催のイベント等にも出展の依頼をいただいています。CDコマ工作、手作りうちわ、人力発電自転車等メニューも豊富に取り揃えています。



わんぱく相撲江戸川区大会



江戸小まつり



しのさんフェスティバル

普及啓発のための講演会の開催

広くみなさんにえどがわエコセンターがすすめる「もったいない運動」を知っていただくため、著名人による講演会を開催しています。



作家 椎名誠講演会
「いつまで私たちの飲める水があるのか」



歌手・大学教授 山本コウタロー講演会
「10周年記念講演会 ほくのエコロジーライフ」



エコカンパニーえどがわ

エコカンパニーえどがわ

江戸川区版環境マネジメント制度

「もったいない運動えどがわ」の事業者向けとして2006年9月1日にスタートしました。現在の登録数は232件です。(2014年11月現在)



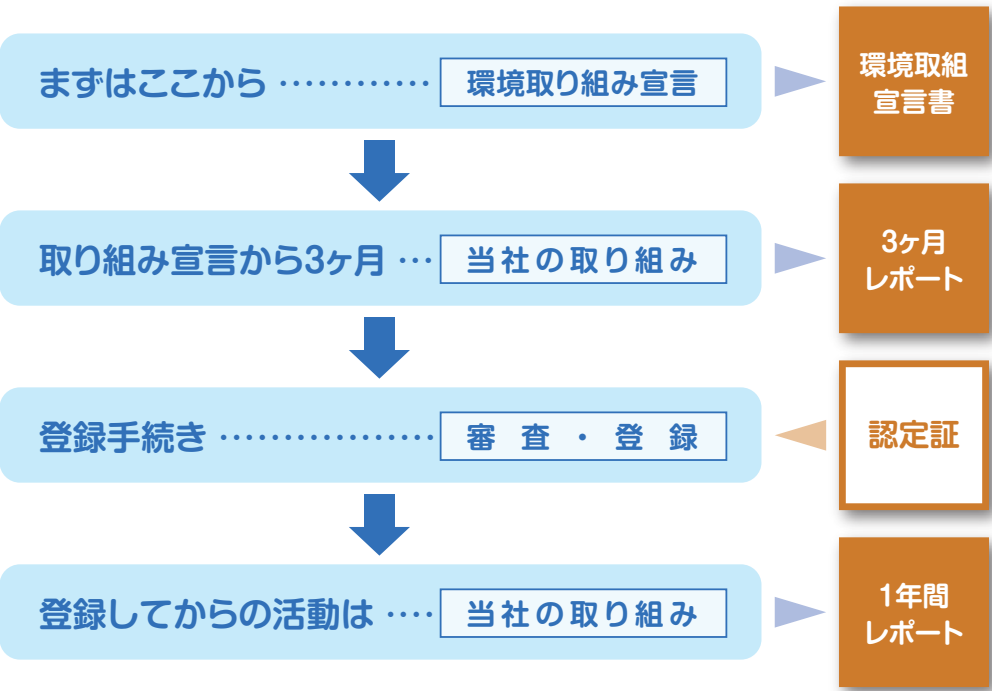
「エコカンパニーえどがわ」と他制度の比較

種 類	エコカンパニーえどがわ	ISO14001	エコアクション21
制定者	江戸川区 (区登録)	国際標準化機構 (国際認証)	環境省 (国内認証)
制度内容	●江戸川区独自の事業所版環境取組制度 ●簡素で取り組みやすい ●ISO、エコアクション21への入門として活用できる	●国際規格の環境マネジメントシステム ●トップダウンで環境方針、経営層による見直しが必要	●ISOシステムを基本とした環境マネジメントシステム ●中小事業者、学校なども取り組みやすい制度として位置づけている
登録・認証等の特徴	環境活動の取組を申請、実践していること(区登録)	ISO規格の要求事項を満たしていること(第三者認証)	ガイドラインの要求事項を満たしていること(第三者認証)
取得効果	●資源、エネルギーの削減(経費節約) ●従業員の環境意識の向上 ●外部PRで企業価値向上	●環境配慮活動企業として消費者等から評価される ●環境配慮の組織活動が期待される	●環境取組の推進 ●経費削減 ●生産性・歩留まりの向上 ●目標管理徹底の効果
経費認証登録料 + 審査料*	●認証・登録料0円 ●審査料0円	●認証・登録料(3年分)約50万円～ ●審査料(毎年)定期審査料約50万円	●認証・登録料(2年分)5万円～約10万円 ●審査料(毎年)約10万円～

*審査登録機関、業種、規模などによって違いがあります。

エコカンパニーえどがわの仕組み

エコカンパニーえどがわは、事業者の皆さんが環境活動に取り組むことを宣言し、「環境取組事業所」として登録、その活動結果を定期的(年1回)に、エコレポート(環境活動報告書)にまとめ、提出する制度です。



ウオット・イズ・エコセンター

元中央工業会 会長 松本 藤隆



えどがわエコセンターの理事会は、設立準備会を経て平成15年に著名な環境ジャーナリスト岡島成行氏を長として設置され、私もメンバーの一人となりました。皆さん各自家言を持っておられ、運営方針等で質疑応答を重ねる中で、私の役割はエコセンターの幅広いPRとエコカンパニーの増強の2点に絞りました。

分野業種を問わず私の知人、友人にエコセンター設立の趣旨を電話や直接面談で説いて廻りましたが、殆どの人は「エコ」とはいったい何だということで「自然環境を保護し、人間社会がつくり出す公害その他様々な害悪を少なくし、クリーン江戸川区を造り上げることであり、エコセンターはその【核】となる組織です。」と説明し、了解をいただきました。

中にはエコロジーのことかと最初からOKを出す人もいました。

また、エコカンパニーについても区内事業者を個別訪問し、「企業内でエコアクションを起こし、これを継続させて区全体のエコ化に協力して欲しい」と頼みました。このような行動の中で、多くの区民の皆さんの適切な判断力と良識には深い感銘を受けました。

設立から10年が経ち、エコセンターが取り組む課題は、地球温暖化問題を含め山積しています。そして、その道程はまさに終わりのない旅です。

小林理事長を中心に、エコセンターの皆さんの末長い奮闘に心よりエールを送ります。

エコカンパニー登録事業所の紹介

桐井電設工業株式会社

エコカンパニーえどがわ登録第1号で、社屋の屋上緑化、雨水利用、風力発電、地域環境の整備などに積極的に取り組んでいます。



屋上緑化

株式会社 タムラ

環境に配慮した事業所として、約60tの雨水槽や30kwの太陽光発電システムを導入するなど非鉄金属リサイクル業に活用しています。



発電量表示パネル



太陽光パネル

株式会社 ヤマイチ

マイバッグ運動等にも積極的に取り組み第2回もったいない大賞を受賞しています。

全店舗がエコカンパニーの登録をしています。



エコカンパニー登録事業者向けの講演会開催

平成26年11月4日タワーホール船堀に於いて森永卓郎氏の講演会を開催しました。

講演テーマ
「変化の時代の今 企業に求められているものは？」



情報発信

情報発信

「知りたい」「学びたい」「参加したい」 役立つ情報の発信

えどがわエコセンターホームページ

役立つ情報満載のホームページでは、イベント情報やエコセンター事業について分かりやすく伝えています。ブログやフェイスブックも開設し、活動の様子などをタイムリーにお届けしています。



<http://www.edogawa-ecocenter.jp/>



<https://www.facebook.com/edogawa.ecocenter>

広報えどがわ

イベントの参加募集を毎号掲載し、エコセンター紹介や講演会の募集なども行っています。



エコちゃんねる

季節ごとのエコセンター事業や地域情報を提供しています。年に3回発行です。



コミュニティーペーパーなど

“東都よみうり” やコミュニティーペーパーの“葛西新聞”、フリーペーパーの“アエルデ” などにもエコセンターのイベント情報を掲載しています。

